

第10節 地形・地質

調査、予測及び評価の手法

- 1 調査手法

項目	調査方法・調査地点
現況地形の状況	● 地形分類、水系・尾根の状況、表層地質等について、既存資料を整理・解析することによりとりまとめた。

項目	調査方法・調査地点
土地の安定性の状況	● 崩壊地、活断層、急傾斜地、地滑り地形について、既存資料を整理・解析することによりとりまとめた。

項目	調査方法・調査地点
土砂流出の状況	● 土砂流出の状況を把握するため、会場候補地及びその周辺の3地点で現地調査を実施した。 縦横断測量により堆砂土量を算定した。

- 2 予測及び評価手法

1) 工事中

項目	地形改変等による土地の安定性及び土砂流出への影響
予測	予測地域: 土工工事箇所周辺 予測時期: 工事期間のうち土工工事が実施される時期 予測方法 ● 土地の安定性への影響を回避又は低減させるための対策、配慮事項を明らかにすることにより予測した。 ● 土砂流出の発生を回避又は低減させるための対策、配慮事項を明らかにすることにより予測した。
評価	本事業による環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかどうか評価した。

2) 存在

項目	地形改変による現況地形の変化
予測	予測地域: 本地区及びその周辺 予測時期: 存在時 予測方法 ● 現況地形と造成計画を重ね合わせることで予測した。
評価	本事業による環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかどうか評価した。

項目	地形改変等による土地の安定性への影響
予測	<p>予測地域:本地区及びその周辺</p> <p>予測時期:存在時</p> <p>予測方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 土地の安定性への影響を回避又は低減させるための対策、配慮事項を明らかにすることにより予測した。
評価	本事業による環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかどうか評価した。

項目	地形改変等による土砂流出量の変化
予測	<p>予測地域:本地区及びその周辺</p> <p>予測時期:存在時</p> <p>予測方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 土砂流出の発生を回避又は低減させるための対策、配慮事項を明らかにすることにより予測した。
評価	本事業による環境影響が、実行可能な範囲内で回避又は低減されているかどうか評価した。